

ひみのふくし

11

2022 Nov
No.411

企画・発行

社会福祉法人 氷見市社会福祉協議会

〒935-0025 富山県氷見市鞍川975

TEL 0766-74-8407

<http://www.himi-shakyo.jp>

この広報誌は皆さんからの会費、
共同募金の助成金により発行
されています。



未来の
福祉人財を育む
インターンシップ、福祉実習



市社協では
大学生のインターンシップや
福祉を学ぶ学生の実習を
受け入れています。

♡CONTENTS♡

- ◆「災害ボランティア」を支える体制づくり…2ページ
- ◆「地域共生社会」の実現を目指して
◆赤い羽根共同募金レポート No.1 …3ページ
- ◆いいね! 地区社協
◆北陸電力より災害備蓄用食品のご寄付
◆各種お知らせ …4ページ

災害ボランティアを支える体制づくり



災害時の復旧・復興活動を行う「災害ボランティア」は、被災地が前に進むための大きな力となります。今回は氷見市における災害ボランティアを支える取り組みをご紹介します。

災害ボランティアってなんだ?!



1995年の阪神淡路大震災をきっかけに、災害ボランティアの重要性が日本全体に広がりました。活動内容は被災状況に応じて多岐に渡ります。土砂やがれきの撤去などの直接的な支援だけでなく、避難所での子どもの遊び相手、炊き出しなど、間接的な支援も行います。平時のボランティア同様、専門性や得意なことを活かした活動が必要とされることもあります。



氾濫した土砂を民家の庭先から搬出するボランティア
(令和元年11月24日・長野市にて)

被災者とボランティアを結ぶ災害ボラセン

氷見市で災害が発生した際、市内外から駆け付ける多くの災害ボランティアが円滑に活動を行うための拠点が「氷見市災害ボランティア・生活支援センター（以下、災害ボラセン）」です。被災者の困りごとを

受け止め、ボランティアとの橋渡しをするとともに、災害時から日常生活にスムーズに移行できるよう、孤立予防や福祉サービスへのつながり等の生活支援を行います。

オール氷見で考える

災害ボランティア



災害ボラセンの取り組みをより実働的にするため、市社協では定期的な訓練を行っています。9月4日（日）に実施した「氷見市災害ボランティア・生活支援センター設置・運営訓練」では、災害時の福祉協定を締結した氷見ライオンズクラブや一般社団法人氷見青年会議所のメンバーも参加し、災害ボラセンの運営体験や災害時にできることを考えるグループワークを行いました。



活動に向かう災害ボランティアを送り出す訓練の様子

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、災害ボランティアの募集を県内のみとする市町村も増えており、地元の災害ボランティアの力が重要となっています。今後も関係団体と一丸となり、市内の災害ボランティアを応援できる体制づくりを目指します。



災害はいつ発生するか分かりません。有事の際に、スムーズに支援を行えるよう、関係機関が集まって体制を整えておくことは大変有効だと思います。ライオンズクラブとしても災害ボランティア活動の支援のために出来ることを考えていきたいです。



訓練に参加した
氷見ライオンズクラブ
尾畑 昭雄 会長

Information 地域福祉・ボランティア推進課

〒935-0011 氷見市中央町12-21 (氷見市いきいき元気館内) TEL:74-1800 受付時間 平日8:30~22:00 (年末年始を除く)

「地域共生社会」の実現を目指して

氷見市における「地域共生社会」の実現を目指した機能や取り組みなどをシリーズで紹介します。今回は「包括的支援体制づくりのポイント」について紹介します。

さまざまな地域生活課題を関係機関と共有し調整する機能

地域共生社会の実現には、誰もが人や社会とのつながりを持ち、孤立しない(させない)地域をつくるために、地域住民や専門機関、行政が協働することが大切です。今回は、ふくし相談サポートセンター(以下、サポセン)を中心とした、多機関・多職種が協働できる体制づくりについて紹介します。

生活の困りごとが1つの世帯の中で複数あり、いくつかの公的な制度や福祉サービスが必要な時、世帯全体を支えるには、多機関・多職種による協働が欠かせません。

多機関・多職種とは、行政各課や各福祉サービス事業所、学校、教育委員会、ハローワーク、弁護士、民生委員や地域のボランティアなど多岐に渡ります。

そのためサポセンでは、支援が必要な世帯の状況に応じて相談や訪問など直接的な支援を行うと同時に、実際の支援が円滑に進むよう、日ごろから以下のような会議や研修を開催してネットワークを作り、困りごとを抱える世帯を多機関・多職種が連携して支える仕組みをつくっています。



多機関・多職種連携を目指した主な取り組み

個人や世帯を支えるために

重層的支援会議・支援会議

実際に支援にあたる関係機関が集まり、支援方針や役割分担を確認します。(適宜実施)

支援者のチームワークのために

セーフティネット定例会議

市と市社協の職員の庁内連携を強化するため、定期的な情報共有をします。(月1回)

より良い仕組みをつくるために

セーフティネット構築会議

氷見市の包括的支援体制の構築を目指し、専門機関や住民の代表、市や市社協等が協議します。(年2回)



赤い羽根共同募金レポート No.1

10月～12月は赤い羽根共同募金の運動期間です。共同募金の助成を受ける団体にインタビューしました。

氷見保護司会

“新たな加害者も
犯罪被害者も生まない
犯罪予防活動”



まずは保護司について教えてください。

保護司は、刑務所や少年院を仮出所、仮退院となり保護観察処分を受けた人や保護観察付の執行猶予処分を受けた人の社会復帰のための支援と、再犯や非行の予防活動をしています。

保護司の活動について教えてください。

保護観察となった人に、就職や住まい等のサポートをしながら、月に2回程度の面談をして、支援しています。

また、予防活動では検察庁とともに中学校での非行予防の授業やごんごん祭り、祇園祭などのイベント会場での啓発活動も行っています。



祭りでの啓発活動

保護観察を受けた人への支援のほか、 予防活動にも重点を置いておられるんですね。

はい。中でも、中学校での授業は「公開ケース研究会」として違法薬物や犯罪がなぜいけないのか、事例を基に加害者や被害者、家族等の様々な視点から捉え、どうしたらよいのかを考える内容です。近年、犯罪の発生件数は減少傾向にあるのに対して再犯率は40%を超えていて、非行や再犯の予防は、犯罪のない社会づくりに重要です。共同募金の助成金はこの予防活動に使っています。



昨年度の公開ケース研究会

保護司や地域に暮らす 私たちに求められることは何でしょうか。

保護司に求められるのは「信じる心」だと思います。非行や再犯の原因に、「帰る場所」「仕事」「頼れる人」がない環境、言い換えれば「孤独」があげられます。保護司だけでなく、なにより地域社会の皆さんの理解が欠かせません。ともに社会を作る一員として受け入れ、役割をもって生きられる社会を作ることがとても大切なのではないのでしょうか。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

※保護司は法務大臣から委嘱されるボランティアで、氷見市には現在36名の保護司がいます。

♥ いいね! 地区社協

⑧ 阿尾地区社会福祉協議会（浜本純雄会長）

阿尾地区は、海岸部と山間部両方を持ち、民宿がたくさんあることが特徴です。阿尾公民館と海峰小学校は敷地内に隣接しており、公民館で様々な活動を行っているため子どもと地域の方が自然に交流できる場となっています。地域活動では、ときと100歳体操やふれあいランチ、男性料理教室、菊づくり教室等を実施しています。

なかでも、阿尾史跡や観光施設等を巡る「よくばりウォーキング」は、子どもからお年寄りまで多くの方が一緒に楽しむことができる活動です。コロナ禍でも感染症

対策を行いながら毎年開催することで、地域住民が地域の良さを知り、地域に愛着を持つ機会となっています。

初めて参加した親子からは「こんなに楽しい行事だとは知らなかった。今後も参加したい」という声が聞かれました。

地域の活動は阿尾地区を活性化させたいという思いから実施しています。現在の活動は参加者が固定してきている課題があるため、地域のニーズを把握し、誰もが参加しやすい新しい活動を行っていききたいと考えています。



ありがとうございます

北陸電力より 災害備蓄用食品のご寄付

8月8日（月）北陸電力（株）高岡支店より、災害備蓄品の入れ替えに伴い、食品のご寄付をいただきました。食糧支援が必要な方やこども食堂などの地域福祉活動の支援に活用させていただきます。

ありがとうございました。



牧野支店長（左）から寄付を受け取る高嶋会長（右）



ご寄付をありがとうございます

令和4年9月1日～30日受入分〈敬称略〉
紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

【ボランティア寄付金】 中勢 千恵 1,000円

地域福祉の推進に活用させていただきます



今月の表紙レビュー

インターンシップの学生にインタビュー!



市社協では8月に富山国際大学の学生2名のインターンシップを受け入れました。「相談援助以外の業務を学べた」「地域に密着した住民主体の支援を見ることができた」と感想を話してくれた飴田さん（左）と澤井さん（右）。

財の人、「人財」。未来に羽ばたく福祉人財をこれからも応援します。